令和6年度　第3回 「知事と語る　やまなしづくり」結果概要

対話テーマ：ダブルケアラーが抱える負担や課題について

県では、本県が目指すべき姿「県民一人ひとりが豊かさを実感できるやまなし」の実現に向けて、知事が直接、幅広い層の県民と意見交換をすることで、県民が抱えている課題を把握し、その解決や新たな施策の立案等に生かしていきたいと考えています。
今回は、ケアラー当事者及び支援団体等の関係者の皆様と、子育てと介護の両立に関わる課題などについて意見交換を行いました。

【日時場所】 令和7年2月7日（金） 午後3時30分から　県庁防災新館4階401・402会議室
【対話相手】 6名

（主な意見等）

〇相談できる人がいない状況が一番辛い。大変な時期を切り抜けられたポイントは、相談する人が周りにいて、話を聞いてもらえたこと。そして緊急時に支えてくれる人がいたこと。
〇当事者同士で話をすることで生きづらさを解決してきた。支援するということよりは、寄り添うピアサポートを大切にしている。
〇どこに相談するのが一番早いんだろう、相談されてもどこに繋いでよいのか分かっていないことが課題。いろいろな支援情報を一元的に得られる窓口があると良い。
〇周囲に誰もいなくても気軽に相談できる専門窓口があると良い。
〇行政と民間がそれぞれのサービスを理解し合い、適切な支援につなげることが大切。
〇子どもの年齢が上がるにつれ、窓口は専門化され、相談の敷居が高くなっている。もっと手前でゆるい関係で相談できる人の役割は大きい。
〇日常的に関わるケアマネジャーやデイサービス職員に話を聞いてもらうことで安心できることもある。ケアマネジャーが介護者と話をする時間的余裕をつくれる施策があると良い。
〇本当に困っている人は助けを求める力もなくなってしまっている。窓口にたどり着けない人を取りこぼさないよう拾い上げていく仕組みが必要。
〇子育て、介護の専門職にとどまらず、たくさんの方がケアラーに寄り添ってくれる社会であってほしい。

（知事（県）の主な発言）

〇人によるフェイストゥーフェイスの伴走支援が必要。子育てにおいてもケアマネジャーのような存在があると良い。かかりつけ相談員のイメージで、介護も含めて相談できる関係構築ができると良い。
〇幅広い取組、県民運動のようなレベルまでを視野に入れて取組をしていかなければこの課題は乗り越えられない。
〇ケアラーの状況は千差万別であるが、できる限りカバーし、それぞれの状況に寄り添った支援ができるようにしていきたい。いただいた意見を咀嚼し、県施策に反映して、より多くの皆さんをバックアップできるようにしていく。